

私、お花屋さんになるなんて全然想像もしてなかったんです。大学から7年間ずっと建築家になることを考えてやっていたから。夢がかなって建築事務所にも入れました。でも、見習いなので深夜まで働くことが多く、とても忙しかったです。

そんな中、建築に生かそうと、週末に近所のお花屋さんでバイトを始めました。やり出したら、植物の魅力に引き込まれてしまって。土いじりをして遊んでいた子どもの頃の本当の自分を思い出したというか。自分の中で、目指してきた理想の建築家と、自分の本当に好きな事とで葛藤があつて、どうしたらいいかわからないような毎日になっていきました。

お花屋さんでバイトしていたある日。生産者の方が早めにカットしたために、つぼみが開かないユリが入荷してしまつたんです。販売できないということでもらつて帰ることにしました。茎を斜めにカットして、うまく水揚げすると咲くかもしれないと教えてもらったので、その通りにやつて玄関に飾っておきました。

翌日も、建築の仕事は相変わらず忙しくて。深夜、終電を降りて「限界かな」と泣きながら自転車をこいで家に帰りました。誰かに気持ちを伝えたいけど1時過ぎだから伝えられる相手もないなあ、なんて思いながら玄関を開けたら。ユリがばつと花開いていたんです。それを見た瞬間、わーって号泣してしまつて。ユリが出迎えてくれたみたいと思えて。

その瞬間に悟るじゃないですけど。私は今まで人々の生活をより豊かにするために建築を学んできたんですけど、図面を引くのは図面の得意な人にまかせて、私はお花で人を豊かにすることができるとは思いませんでした。お花屋さんとしてやっていこうって決めました。



Heartful Story

「植物が、お手本。」

建築の仕事が続けながら、いろんなお花屋さんを見に行きました。見た中でも、初心者の方にも気軽に買ってもらえる今のお店の雰囲気特に気に入りました。偶然にもちょうど店員を募集していて、入れていただくことができました。でも実は、お花屋さんって新人を採用してくれる所ってなかなか無いんです。だから運命的っていうか。このお店のスタッフになるべくしてなったのかな、なんて思ったりもします。

ある時、「植物がこんなに好きなのって何でだろう？」って思ったことがあつて。ずっと考えてたら「私がお手本にしてるのは植物だ」って気がついたんです。

植物って実は、ものによっては地上に出ている部分より根っこのほうが長くて、けっこう下まで張つてたりするんです。だから風が強くても全然抜けない。ペースがしっかりしている力強さには敬意を感じてしまいます。気候や風土に順応しながら育っていく点も素晴らしい、自分で成長しようとする向上心みたいなものも見習えると思います。それに、お花って誰にでも平等に咲いてくれる。私も、どのお客さまにも笑顔で接したいなって思いますね。植物ってほんと、生き方のお手本になるなって思います。

私は、お花に救われたんですよね。あのユリに。だから、その救いの手をみんなに広げていきたいっていう想いがあります。

昨日も閉店間際に、泣きそうな顔で駆け込んで来られたお客さまがいらして。「お花が欲しいんです。なんかイライラしちゃって」と。一緒にその方に合ったお花を選んで差し上げたら、とっても喜んで帰られて。「あのお花、どんなふうで咲いてくれるのかな」なんて期待しながらお見送りしました。お花で、いろんな方の生活が変わったら、すごくうれしいですね。

このストーリーは『フルラージュアン』ルミネ新宿店の岩城真紀子さんのインタビューより構成しています。岩城さんは2011年、ルミネ全店のショップスタッフの接客スキルを競うコンテスト「ルミネスト2011」でゴールド特別賞を受賞されました。